

三浦文彰の音楽は聴き手の心身を自由に解き放ち、 夢の世界へと浮遊させてくれる —— 伊熊よし子

破竹の勢いでスター街道をまっしぐらに突き進んでいるアーティストの演奏は、活力に満ちあふれ、聴き手にもそのエネルギーをストレートに伝えるため、聴き込むほどに元気が湧き、心が高揚してくる。三浦文彰の演奏はデビュー当初から大きな変貌を遂げ、最近では音楽がより深みを増し、説得力に富むものになった。

印象的なのは顔付きが変わったこと。目力が非常に強くなり、凛とした表情をしている。そんな彼が田村響と名曲の数々を披露するリサイタルは、まさに天空に駆け上がるようなデュオになるに違いない。日常から離脱し、夢の世界に浮遊し、心身を自由に解き放つ。三浦文彰の音楽は、それを可能にしてくれる。



ハノーファー国際コンクール 優勝

三浦文彰

| ヴァイオリン |

PHOTO: YUJI HORI

2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に大きな話題になった。これまでに、宮崎国際音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、メニューイン・フェスティバルなどに参加。ハンブルク北ドイツ放送響、ブラハ・フィル、シュトゥットガルト放送響など国内外で多くのオーケストラと共演し、国際的な活動を展開している。13年は、ペンデレツキ80歳記念演奏会に出演。14年は、ルーブルでのリサイタルでパリ・デビューを果たした。15年には、リントゥ指揮ベルリン・ドイツ響との共演で、チャイコフスキーとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲をエイベックス・クラシックスよりリリース。2009年度第20回出光音楽賞受賞。使用ヴァイオリンはNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されたJ.B.Guadagnini (1748年製)、ヴィオラは日本ヴァイオリンより貸与された1780年製ストリオールニスクール Ex-Rachlinである。

世界的コンクールを制覇したふたりが奇跡の共演！
美しい超絶技巧が冴えわたる！
極上の感動と興奮！



ロン・ティボー国際コンクール 優勝

田村 響

| ピアノ |

PHOTO: AKIRA MUTO

愛知県安城市生まれ。3歳よりピアノを始める。2007年10月、パリで開催されたロン・ティボー国際コンクールにおいて弱冠20歳で第1位に輝き一躍世界に注目されるに至った。以来国際的な演奏活動を展開している。09年2月には、ビシュコフ指揮ケルン放送交響楽団にソリストとして定期演奏会デビューと日本ツアーを行った。国内のオーケストラからもソリストとして招かれ、高い評価を受けている。また、ライブツィヒ、パリ、ザルツブルクなどヨーロッパ各地や日本各地でのリサイタルを活発に行っている。これまでに、深谷直仁、清水皇樹、クラウドティオ・ソアレス、クリストフ・リースケの各氏に師事。03年アリオン賞、06年出光音楽賞、08年文化庁長官表彰・国際芸術部門、09年ホテルオークラ音楽賞など受賞。京都市立芸術大学専任講師。

三浦文彰

チャイコフスキー &
メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲



チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

三浦文彰 (ヴァイオリン)
ハンヌ・リントゥ指揮 ベルリン・ドイツ交響楽団

【録音】2015年6月11日～13日、ベルリン、テルデックス・スタジオ
AVCL-25878 定価：¥3,000(本体価格)+税

Now on sale

avex-CLASSICS